

授業科目	在宅療養を支える看護Ⅱ	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科 3年	担当教員	松本 みゆき
授業の目的・テーマ	地域・在宅療養者における、在宅での看護展開ができる。		
授業の到達目標	在宅での看護展開を修得する。		
授業の計画	1 (第4章) 地域・在宅看護の事例展開	26	
	2 事例を学ぶにあたって	27	
	3 医療的ケア児の事例展開	28	
	4 脳卒中の療養者の事例展開	29	
	5 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の療養者の事例展開	30	
	6 //	31	
	7 筋委縮性側索硬化症 (ALS) の療養者の事例展開	32	
	8 パーキンソン病の療養者の事例展開	33	
	9 統合失調症の療養者の事例展開	34	
	10 //	35	
	11 認知症高齢者の事例展開	36	
	12 //	37	
	13 がん終末期の療養者の事例展開	38	
	14 //	39	
	15 試験	40	
	16	41	
	17	42	
	18	43	
	19	44	
	20	45	
	21	46	
	22	47	
	23	48	
	24	49	
	25	50	
授業の方法	講義 グループワーク 演習 体験学習		
テキスト/参考文献	地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論〔2〕 (医学書院)		
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療・在宅現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、在宅看護技術に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	総合評価について事前に理解しておくこと。		

授業科目	小児看護方法論 I	単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科 3年	担当教員	山本 雅樹 他
授業の目的・テーマ	小児期におこりやすい障害や疾患について理解できる。		
授業の到達目標	「授業の目的・テーマ」に記載した内容を目標に、授業を進める。		
授業の計画	1	第1章 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護	26 健診
	2	第 3章 代謝性疾患と看護	27 予防接種
	3	第 2章 新生児の看護	28 //
	4	//	29 まとめ
	5	第 4章 内分泌疾患と看護	30 試験
	6	//	31
	7	第 5章 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護	32
	8	//	33
	9	第 6章 感染症と看護	34
	10	//	35
	11	第 7章 呼吸器疾患と看護	36
	12	第12章 耳鼻咽喉疾患と看護	37
	13	第 8章 循環器疾患と看護	38
	14	//	39
	15	第 9章 消化器疾患と看護	40
	16	//	41
	17	第10章 血液・造血器疾患と看護	42
	18	第11章 悪性新生物と看護	43
	19	第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護	44
	20	//	45
	21	第13章 神経疾患と看護	46
	22	第14章 運動器疾患と看護	47
	23	第18章 精神疾患と看護	48
	24	//	49
	25	健診	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）		
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での医師業務		
実務経験の活かし方	医師業務に携わった経験を持つ教員が、小児疾患に関する知識を講義する。		
履修上の注意事項	テキストを持参すること。		

授業科目	小児看護方法論Ⅲ	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科 3年	担当教員	前田 さち・小松 美奈子
授業の目的・テーマ	小児看護の実践に向けて、問題解決過程とその展開方法を理解できる。		
授業の到達目標	上記「授業の目的・テーマ」の内容のレベルに達すること。		
授業の計画	1	事例検討・看護過程	26
	2	〃	27
	3	〃	28
	4	〃	29
	5	〃	30
	6	〃	31
	7	〃	32
	8	〃	33
	9	〃	34
	10	〃	35
	11	〃	36
	12	〃	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	まとめ	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 グループワーク 演習		
テキスト/参考文献	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論、小児臨床看護各論（医学書院）		
評価の方法や基準	授業態度、課題への取り組み、課題提出状況など総合的に評価する		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護援助論に関する基本的知識を講義する		
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」の内容をよく理解しておくこと		

授業科目	母性看護方法論Ⅲ		単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科 3年		担当教員	橋本 吏加・畠中 ゆかり
授業の目的・テーマ	妊娠・分娩・産褥、新生児各期の看護に必要な看護技術を修得できる。			
授業の到達目標	妊娠・分娩・産褥、新生児各期の看護に必要な看護技術を修得する。			
授業の計画	1	妊婦の腹囲、子宮底長測定、レオポルド触診法	26	
	2	胎児心拍数モニタリング	27	
	3	分娩時の看護	28	
	4	〃	29	
	5	退行性変化・進行性変化の観察	30	
	6	退行性変化・進行性変化の観察	31	
	7	新生児の観察と看護	32	
	8	新生児の観察と看護	33	
	9	沐浴演習	34	
	10	沐浴演習	35	
	11	看護過程 事例	36	
	12	看護過程 事例	37	
	13	看護過程 事例	38	
	14	看護過程 事例	39	
	15	試験	40	
	16		41	
	17		42	
	18		43	
	19		44	
	20		45	
	21		46	
	22		47	
	23		48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	講義 演習			
テキスト/参考文献	母性看護学〔2〕母性看護学各論（医学書院）、母性看護技術（メディカ出版）ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程（医歯薬出版）			
評価の方法や基準	筆記試験、演習等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、母性看護技術に関する基本的知識を講義する			
履修上の注意事項				

授業科目	リフレクション		単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科 3年		担当教員	下村 美佳子 他
授業の目的・テーマ	臨床の場における看護実践について深く思考し、実践方法を理解し、振り返りができる。			
授業の到達目標	I ケースレポートを仕上げるができる。 II 自分の実践を振り返ることにより実践能力の向上ができる。			
授業の計画	1	ケースレポートの進め方 (高橋)	26	発表準備 (抄録の作成・配布)
	2	〃	27	ケースレポート発表会
	3	ケースレポートによる看護実践の思考①	28	〃
	4	ケースレポートによる看護実践の思考②	29	〃
	5	ケースレポートによる看護実践の思考③	30	〃
	6	ケースレポートによる看護実践の思考④	31	
	7	ケースレポートによる看護実践の思考⑤	32	
	8	ケースレポートによる看護実践の思考⑥	33	
	9	ケースレポートによる看護実践の思考⑦	34	
	10	ケースレポートによる看護実践の思考⑧	35	
	11	ケースレポートによる看護実践の思考⑨	36	
	12	ケースレポートによる看護実践の思考⑩	37	
	13	ケースレポートによる看護実践の思考⑪	38	
	14	ケースレポートによる看護実践の思考⑫	39	
	15	ケースレポートによる看護実践の思考⑬	40	
	16	ケースレポートによる看護実践の思考⑭	41	
	17	ケースレポートによる看護実践の思考⑮	42	
	18	ケースレポートによる看護実践の思考⑯	43	
	19	ケースレポートによる看護実践の思考⑰	44	
	20	ケースレポートによる看護実践の思考⑱	45	
	21	ケースレポートによる看護実践の思考⑲	46	
	22	ケースレポートによる看護実践の思考⑳	47	
	23	ケースレポートによる看護実践の思考㉑	48	
	24	ケースレポートによる看護実践の思考㉒	49	
	25	発表の仕方 抄録の作り方 (下村・担任)	50	
授業の方法	講義、個人ワーク、グループワーク			
テキスト/参考文献	看護研究 (医学書院)			
評価の方法や基準	ケースレポートおよび抄録、発表に向けての準備姿勢と授業中の態度によって評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	看護研究を実践			
実務経験の活かし方	看護研究を実践経験を活かし、基礎学者に分かりやすい研究への望み方を講義する。			
履修上の注意事項	ケースレポートの評価は所定の評価表に基づいて評価する。また、出席状況および授業中の態度やワークに取り組む姿勢も評価対象とする。			

授業科目		臨床判断能力と実践	単位／時間		1／30時間
開講学科等		看護学科 3年	担当教員		松本 みゆき・丁野 美智・山崎 皓太 他
授業の目的・テーマ		看護の基本技術、診療補助技術を統合し臨床現場で実践できる臨床判断能力を身につける。			
授業の到達目標		1. 臨床現場で求められる臨床判断能力についてを考えることが出来る。 2. 複雑な状態の患者に対する優先順位を考慮した必要な援助を考え、実施できる能力を養う。			
授業の計画	1	状況判断能力をつける： フィジカルアセスメント (丁野)	26	〃	
	2		27	〃	
	3		28	〃	
	4		29	〃	
	5	複雑な状態の患者の状況判断 (山崎) (情報収集、アセスメント、看護計画)	30	〃	
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11	状況に合わせた援助技術の実施 (松本 原田 内川)			
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
	21				
	22				
	23				
	24				
	25				
授業の方法		講義 演習 グループワーク			
テキスト/参考文献		基礎看護技術ⅠⅡ (医学書院) 看護がみえる①②③ (メディックメディカ)			
評価の方法や基準		課題レポート、実技試験、グループワーク、授業態度及び筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験		医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方		看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護技術に関する基本的知識と実践に生かすことができるよう講義する			
履修上の注意事項		看護技術ノートを事前に作成して臨むこと			

授業科目	看護マネジメント・医療安全		単位／時間	1 / 30 時間
開講学科等	看護学科 3年		担当教員	森木妙子・小松ゆり・伊勢田純子
授業の目的・テーマ	看護管理の概念と実際を理解し、看護専門職としての現状の理解ができる。			
授業の到達目標	看護管理の概念と実際を理解し、看護専門職としての現状の理解と今後のあり方を考えることができる。			
授業の計画	1	第1章 看護とマネジメント (森木)	26	事故防止 (伊勢田)
	2	A-看護管理学とは B-看護におけるマネジメント	27	診療の補助/療養上の世話の事故防止 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 医療安全とコミュニケーション 看護師の労働安全衛生上の事故防止 組織的な安全管理体制への取り組み
	3	第2章 看護ケアのマネジメント (小松)	28	
	4	A-看護ケアのマネジメントのプロセス	29	
	5	B-患者の権利の尊重 D-チーム医療	30	試験
	6	E-看護業務の実践	31	
	7	第3章 看護職としてのセルフマネジメント	32	
	8	A-看護職のキャリア形成	33	
	9	B-看護専門職としての成長	34	
	10	C-健康管理 D-ストレスマネジメント	35	
	11	第4章 看護サービスのマネジメント	36	
	12	A-組織としての看護サービスのマネジメント	37	
	13	B-組織としての目的達成のマネジメント C-看護サービスの提供のしくみづくり E-ケアを提供する環境のマネジメント F-物品のマネジメント	38	
	14	G-財的資源マネジメント H-業務量のマネジメント I-情報のマネジメント J-組織におけるリスクマネジメント K-サービスの評価	39	
	15		40	
	16	第6章 看護を取り巻く諸制度 A-看護の定義 B-看護職	41	
	17	第5章 マネジメントに必要な知識と技術 (森木)	42	
	18	〃	43	
	19	試験	44	
	20	医療安全 (伊勢田)	45	
	21	第2章 看護ケアのマネジメント	46	
	22	C安全管理	47	
	23	〃	48	
	24	(教科書医療安全) 第1章事故防止の考え方	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義 グループワーク			
テキスト/参考文献	基礎看護学〔1〕看護学概論(医学書院)、看護の統合と実践〔1〕看護管理(医学書院)、医療安全(医学書院)			
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護マネジメント・医療安全に関する基本的知識を講義する。			
履修上の注意事項	「評価の方法や基準」について、事前に理解しておくこと。			

授業科目	国際看護	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科 3年	担当教員	丁野 美智
授業の目的・テーマ	グローバル化が進んだ世界において、我が国だけでなく、地球上のあらゆる人々の健康がわれわれに関係している。国境をこえて広域的に発生している健康問題の現状と看護支援のあり方について学ぶ。		
授業の到達目標	国や地域、民族間の保健医療、健康、看護への視点を向け、支援できる看護の基礎知識と技術を理解できる。		
授業の計画	1	国際看護とは	26
	2	グローバルヘルス	27
	3	国際協力のしくみ	28
	4	〃	29
	5	分化を考慮した看護	30
	6	国際看護過程の展開	31
	7	〃	32
	8	開発協力と看護	33
	9	〃	34
	10	〃	35
	11	国際救援と看護	36
	12	〃	37
	13	21世紀の国際協力の課題	38
	14	〃	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 グループワーク 演習		
テキスト/参考文献	看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学（医学書院）		
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場、海外での看護業務		
実務経験の活かし方	国際的な場で看護師業務に携わった経験を持つ教員が、国際看護に関する基本的知識を講義する。		
履修上の注意事項	総合評価についてよく理解しておくこと。		

授業科目	災害看護	単位／時間	1 / 15 時間
開講学科等	看護学科 3年	担当教員	藤戸 亮・寺尾 浩
授業の目的・テーマ	災害における看護の基礎知識と技術を理解できる。		
授業の到達目標	災害における看護の基礎知識と技術を習得する。		
授業の計画	1	第2章 災害看護学 (藤戸)	26
	2	A-災害看護の歩み	27
	3	〃	28
	4	B-災害医療の基礎知識	29
	5	C-災害看護の基礎知識	30
	6	D-災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	31
	7	〃	32
	8	E-被災者特性に応じた災害看護の展開	33
	9	〃	34
	10	〃	35
	11	第2章 トリアージ (寺尾)	36
	12	〃	37
	13	〃	38
	14	〃	39
	15	試験	40
	16		41
	17		42
	18		43
	19		44
	20		45
	21		46
	22		47
	23		48
	24		49
	25		50
授業の方法	講義 グループワーク 演習		
テキスト/参考文献	看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 (医学書院)		
評価の方法や基準	筆記試験等総合評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	医療現場・災害現場での看護業務		
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、災害看護に関する基本的知識を講義する。		
履修上の注意事項	総合評価についてよく理解しておくこと。		

授業科目		在宅看護論実習		単位／時間		2／80時間	
開講学科等		看護学科 3年		担当教員		松本 みゆき	
授業の目的・テーマ		地域で生活している対象とその家族を理解し、在宅看護に必要な知識・技術・態度を習得する。					
授業の到達目標		下記に記載					
授業の計画	1	実習目標			左記目標に向けて、80時間、各施設で実習を行う。		
	5	1) あらゆる健康段階にある対象と家族に対して在宅看護の役割と機能が理解できる。 2) 在宅看護の対象の特徴を理解し、在宅で生活している人々が、病気や障害に応じて充実した生活がおくれるよう看護の方法を理解し援助できる。 3) 在宅看護に必要な保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、社会資源の活用方法と調整について理解する。 4) 在宅療養者と家族との関わりを通じて、自己の行動を振り返り、看護師としての基本的姿勢と態度を身につける。					
	10						
	15						
	20						
	25						
	30						
	35						
	40						
	45						
	50			内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。			
	55						
	60						
	65						
	70						
	75						
	80						
	85						
	90						
	授業の方法		訪問看護ステーション・介護老人保健施設・介護老人福祉施設・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・保健所にて臨地実習				
テキスト/参考文献							
評価の方法や基準		実習内容、提出物、出席等を総合的に評価する。					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		医療／在宅現場での看護業務					
実務経験の活かし方		看護師業務に携わった経験を持つ教員が、在宅看護に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う					
履修上の注意事項		実習の意義をよく理解しておくこと。					

授業科目	小児看護学実習	単位／時間	2／80時間	
開講学科等	看護学科 3年	担当教員	内川 佳世 他	
授業の目的・テーマ	小児の特徴を理解し、各健康レベルにある小児とその家族に看護が実践できる。			
授業の到達目標	下記に記載			
授業の計画	1	実習目標 1)小児各期の成長発達を理解し、適切な成長発達への援助ができる。 2)疾病・障害をもつ小児と家族を理解し適切な看護ができる。 3)小児看護における倫理について理解し倫理的配慮ができる。 4)小児看護の役割を理解できる。 5)小児に関する社会資源の活用について理解できる。 内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。		
	5			
	10			
	15			
	20			
	25			
	30			
	35			
	40			
	45			
	50			
	55			
	60			
	65			
	70			
	75			
	80			
	85			
	90			
	授業の方法	高知赤十字病院 国立病院機構高知病院 高知医療センター 土佐希望の家 保育園にて臨地実習		
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	実習内容、提出物、出席等を総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護学に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う			
履修上の注意事項				

授業科目	母性看護学実習		単位／時間	2／80時間
開講学科等	看護学科 3年		担当教員	橋本 吏加 他
授業の目的・テーマ	妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に応じたウェルネスに向けた看護を実践する基礎的能力を習得する			
授業の到達目標	下記に記載			
授業の計画	1	実習目標 1. 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の生理的变化と、心理的・社会的特徴を理解する 2. 母子とその家族のウェルネスに向けた看護援助を理解する。 3. 母子とその家族の個別性を捉えた看護過程を展開できる。 4. 継続看護の必要性を理解し、看護者間および母性を取り巻く多職種との連携について知る。 5. 生命の誕生、母子相互作用を通して、生命の神秘、生命の尊厳、母性観、父性観について深めることができる。 内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。		
	5			
	10			
	15			
	20			
	25			
	30			
	35			
	40			
	45			
	50			
	55			
	60			
	65			
	70			
	75			
	80			
	85			
	90			
授業の方法	高知赤十字病院、高知大学医学部附属病院、高知医療センター、国立病院機構高知病院にて臨地実習			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	実習内容、提出物、出席等を総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、母性看護学に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う。			
履修上の注意事項				

授業科目	統合実習		単位／時間	2／80時間
開講学科等	看護学科 3年		担当教員	原田 和恵 他
授業の目的・テーマ	専門職業人としての責任と役割を理解し、臨床実践に即した看護が実践できる。			
授業の到達目標	下記に記載			
授業の計画	1	実習目標		左記目標に向けて、80時間、各施設で実習を行う。
	5	1) 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 2) 夜間の患者の状況を知ることにより患者を総合的に理解できる。 3) 複数患者の看護援助について、優先順位と時間管理の必要性が理解できる。 4) 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高めることができる。 5) 看護観を深めると共に将来の看護師としての自己の課題を明確にできる。		
	10			
	15			
	20			
	25			
	30			
	35			
	40			
	45		内容、方法、評価については、実習要項を別途配布する。	
	50			
	55			
	60			
	65			
	70			
	75			
	80			
	85			
	90			
	授業の方法	高知赤十字病院、近森病院にて臨地実習		
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	実習内容、提出物、出席等を総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	医療現場での看護業務			
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、統合された看護に関する基本的知識を実践の場を通して指導を行う			
履修上の注意事項	実習の意義をよく理解しておくこと。			